

2021年度第1回教育課程編成委員会議事録  
(ホテル科・ブライダル科・観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科)

<b>日時</b>	2021年9月9日(木)	<b>場所</b>	304 教室、305 教室より Zoom で実施	<b>進行</b>	湊、澤田	<b>記録</b>	柴崎	
<b>出席者</b>	企業側 (11名) 敬称略・順不同							
	学科	企業名・団体名					名前	
	観光・鉄道	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会					藤川 誠二	
	観光・鉄道	千葉県都市モノレール株式会社					今関 真治	
	エアライン	株式会社旅行綜研					石井 光彦	
	エアライン	株式会社ジャッツ 成田空港事務所					鈴木 繁	
	エアライン	一般財団法人成田国際空港振興協会					磯邊 真紀江	
	エアライン	株式会社エコーパートナーズ					山田 将人	
	テーマパーク	イオンモールキッズドリーム合同会社					伊藤 弘美	
	ホテル・ブライダル	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会					飛田 和子	
	ホテル	ホテルニューオータニ幕張					風間 昭彦	
	ホテル・ブライダル	株式会社オータパブリケーションズ					山下 裕乃	
	ホテル	シティパークアンドサービス株式会社					加藤 哲也	
	学校側 (12名) 矢口、竹ノ谷、湊、澤田、小園、立石、中山、松本、栗原、石神、茂野、塚本							
<b>議事録</b>	<p><b>【全体会】</b> 司会進行：湊、澤田 今回の教育課程編成委員会は、ホテル科・ブライダル科・観光科・鉄道科・エアライン科・テーマパーク科で開催。</p> <p>1. 校長挨拶 観光業界も学校もオンラインが当たり前になってきている。今後もオンラインやバーチャルを組み合わせた取り組みが進んでいくが、観光業界においても学校運営においても、対面は欠かせないサービスであり、周りの方々も本学の学生も求めている。これらの活用方法を合わせたやり方等を含めて、皆様の現実を共有したうえで、授業や行事運営のやり方も含め意見交換させていただきたい。</p> <p>2. 新任委員紹介 一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会 藤川 誠二様 千葉県都市モノレール株式会社 今関 真治様 一般財団法人成田国際空港振興協会 磯邊 真紀江様</p> <p>3. 業界・企業の最新情報 (TOKYO2020 を終えて) 石井氏(エアライン)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の動きが止まっており、国内需要をどう掘り起こしていくか課題。</li> <li>・オリパラでは22の案件に携わることができ、本社の添乗員や一般から募集したスタッフが参加した。</li> <li>・本業の添乗員の派遣や空港旅客の業務が動いていないが、ワクチン接種会場へ社員を派遣している。</li> </ul> </p>							

鈴木氏(エアライン)

- ・空港内の業務よりもオリパラの支援やワクチン接種会場でのヘルプ業務が中心。

磯邊氏(エアライン)

- ・オリパラ後の空港は閑散としており、スタッフのモチベーションをこれからも維持するために、中国語や韓国語の勉強、クレーム対応などスキルアップとなる取り組みをしている。

山田氏(エアライン)

- ・オリパラ期間は、コロナ禍における業務量と比較すると1.2倍程度であった。
- ・閉会式後は選手村で直接チェックインをし、そのまま荷物を空港へ運び飛行機に積むよう対応があった。弊社が担った業務としては4名×10時間×2日間という業務量であった。さらにアメリカのバスケットボールチームのチャーター機の対応も別途行った。
- ・全体の国際線業務量としては、2020年と比較すると上昇傾向にあるが、2019年と比較すると約50%以下となっている。
- ・国内線を中心に復調傾向にあり、昨年には出来なかった採用活動も再開でき、少しずつ兆しが見えてきている。

飛田氏(ホテル・ブライダル)

- ・オリパラ期間中はホテルごとに対応や導線などに違いがあった。
- ・会食業務は毎週のようにキャンセルが相次いでいる。
- ・ワクチンがいきわたり、安心して会食ができるような状況になることを望んでいる。

風間氏(ホテル)

- ・オリパラは組織委員会や協会団体の宿泊があったので、2019年並みの収入があった。各国からのお客様がお越しになり、コロナ対策における外国人の方の規制が難しく感じることもあったが、無事にオリパラを終えることが出来た。お盆の期間は天候に恵まれない日が多く苦戦が多かった。
- ・雇用調整助成金を上手く活用し、今できることをしっかりやる。
- ・今後は人材育成やより多くのチャンスを与え、今できることを模索しながら日々の業務に取り組んでいく。さらにブライダル事業においても一つ一つの婚礼で何をするかということに注力していく。

山下氏(ホテル・ブライダル)

- ・週刊ホテル・レストランの購読部数は減少しており、人材紹介の手数料も少なくなっている現状。
- ・今後はホテルや旅館と連携してB to Cにおける販売サイトの強化をしていく。さらに通販業界における課題をお客様の声を聞きながら改善していく。
- ・旅行会社においては、新たな企画をホテルと協力して作っていく。

加藤氏(ホテル)

- ・オリパラに関しては、当初の予定に相当する台数には及ばなかったが、オリパラ特需ということで売上げを上げることが出来た。
- ・コロナに関しては、早い段階から社会貢献度が高い活動を始めた。軽症者を病院や専門施設に搬送する請負業務から始まった。一番影響を受けたバスの運転手が担当し、リカバリーすることが出来た。
- ・ホテルの業務においては、ドアマンを専門職としているため、稼働率が低い時でも仕事の量が減ることはなかった。

伊藤氏(テーマパーク)

- ・オリパラの期間は幕張メッセの交通規制があったため、お客様へのご案内が発生していた。
- ・9月の平日はほとんどが学校団体からの予約であるが、緊急事態宣言が延長されるということで、お子様の感染を心配されてキャンセルが多く発生している。
- ・ワクチンの普及やお子様への接種が進む中で、安心・安全にお客様を迎えるための準備を進めていく。

今関氏(観光・鉄道)

- ・2020年のオリパラ前は、インバウンドに力を入れようということで、案内表示や放送を多言語化し、チラシ作成などで外国のお客様向けに力を入れてきたが、延期になったことで見込んでいた計画とず

れてしまった。

- ・コロナ終息を見据えて、地域限定の旅行事業を沿線の企業やホテル、施設と連携して作っていく。

藤川氏(観光・鉄道)

- ・オリパラについては、実施されたことは大変喜ばしかったが、無観客ということで業界全体としては、想定していた成果が得られなかった。
- ・コロナ終息に向けての動きやマーケットの動きが予測通りに動いていない。
- ・修学旅行の直前の延期やキャンセルが繰り返してきており、キャンセル料の発生について、学校からの理解が難しく、通常期よりも仕事量が増えている。
- ・収益に関しては、ワクチン接種の支援事業やコールセンター業務などから得ている状況。旅行業としてもオンラインツアーやVRの修学旅行などを提案し、お客様に価値を提供している。
- ・業界の仕事は、実体がない夢や楽しさを生業としている。「こういう時だからこそ、出来ること」という思想を持って日々お客様と接していく。

### 【分科会】観光科、鉄道科

進行：立石が分科会を開会。

《2021年度新規導入科目カリキュラム》

立石

- ・Web筆記対策 就職の際のSPI試験対策及び基礎学力向上を目的に導入。  
小学生・中学生までの5科目と高校生3科目を自分のレベルに合わせて学習可能なWeb教材を利用した科目。基礎学力がバラバラで入学してくる学生毎にシステムが弱点等を自動で確認し、レベルに合わせて授業を行える。
- ・鉄道接客演習 鉄道業における接客(窓口対応、切符販売)の総合演習。  
2年前半まで時刻表実務という授業があったが、今まで座学で紙面上の問題を各自で解く形式だったが、その知識を用いて実際にお客様がいらっしゃる状況を想定して、時刻表を用いて演習を行う。  
また、企業実習が出来ない代わりに切符の受付であったり、千葉駅などの構内をイメージしての接客案内等を行う。

《22年度への追加》

立石

- ・手話講座Ⅰ&Ⅱ 観光科は今まで2年後期のみの設定であったが、半期のみだと内容が限定されてしまい思ったような学習効果が得られなかったため。

今関氏

- ・良い取り組みだと思う。

藤川氏

- ・手話はなぜ半期から1年通しにしたのか。

立石

- ・学生側から半期だと習熟度が低く、もっと学びたいとの意見が多く上がった。  
学生側の意欲をくみ取り、1年間通期にすることが妥当と判断した。

《2022年度以降の展開に関する案》

立石

観光科について

- ・観光、レジャー要素の学習(キャンプ、グランピング、ダイビング、IR、スポーツレジャー等)  
細かい科目設定ではなく統括して1科目のようなイメージ。県内でも経験できるものは日帰り、特殊なものは研修旅行などと合わせて実施したい。
- ・地域学習(地元の観光要素を発見する)  
旅程管理研修後に地元エリアの観光ガイドを実践、出来れば千葉市観光局に審査していただき、合格者には合格証を出せるとベスト。実際のガイドを学生達に実施させることができると良い。
- ・情報発信ツールおよび発信方法の学習・実践  
SNSを通じた情報発信を実践、自分達の意図を相手に伝えることを学ぶ。学校としてのアカウントを用意し、来校する高校生向けや地域・企業との連携を行えるようにしていきたい。
- ・今までのカリキュラムは資格取得を重きカリキュラム作成をしてきたが、学生の食いつきはそれほど

ど良くなく、入学者数も減少している。新たな形を考え、上記内容を新たなカリキュラムとして考えている。ぜひ、意見をお伺いしたい。

藤川氏

- ・企業としても、今までの発型の旅行から着地型旅行へ変化している。地元との連携などを強め、お客様を呼び込む努力をしている。学校が向かう道は正しいと思う。旅行＝楽しいを学生には感じてほしい。そういう面からも今までの考え方ではなく、新たな道を進むべき。

立石

鉄道科について

- ・実習室の拡充、及び企業連携の強化  
鉄道実習室に置いてあるモックアップを利用しているが、運転体験は可能だがそれ以外（車掌業務・窓口接客業務）は他校と比べて弱いと感じるため、設備を揃えるのと同時に、カリキュラムも変更していきたい。

今関氏

- ・採用という面から見ると、業務的な事は会社に入ってからで十分間に合う。一番大切なのは人間としての基礎の部分が重要。自分から発信する力を学生のうちに身に付けてほしい。

立石

- ・過去に現場実習で御社にお世話になっていた。今後、インターン等でお世話になることはできないだろうか。

今関氏

- ・短い期間であれば実現できるかもしれない。

《就職について》

富澤

- ・2年生(2022卒)現状  
全体就職率 50.2% (昨年 46.4%) 127名 / 253名 (昨年 115名 / 248名)  
観光科就職率 66.7% (昨年 16.7%) 10名 / 15名 (昨年 2名 / 12名)  
鉄道科就職率 31.6% (昨年 47.8%) 6名 / 19名 (昨年 11名 / 23名)
- ・観光科内定先  
阪急トラベルサポート、ツーリストエキスパーツ、ニッポンレンタカー、東海旅客鉄道、東武ステーションサービス、紀伊乃国屋、箱根山の茶屋
- ・鉄道科内定先  
新京成電鉄、JR東日本ステーションサービス、都営交通協力会、新北斗警備保障、サンコー・エア・セルテック
- ・昨年より求人件数 8月末 (325件 / 484件) 及び求人数減少傾向。  
飲食店・宿泊業や運輸業などの採用需要の減少プラス企業側と学生のミスマッチにより内定への道が遠くなっている。

今関氏

- ・鉄道業界もただお客様を運ぶだけではなくなっている。乗車して頂き、駅や駅周辺でお金を使っただけ。鉄道という狭い視野だけでなく、観光業界の中に鉄道があるという大きな視野で見てほしい。今年観光科の学生が鉄道業界に内定しているのは企業側としてそういう観点があるのかもしれない。

藤川氏

- ・結局はその人の人間力だと思う。今年の学生はたまたま観光科にそういう学生が集まった結果内定が多かったのかもしれない。弊社の採用は21年度はできたが、22年度は出来なかった。23年は未定である。

進行：立石が分科会を閉会した。

【分科会】テーマパーク科

進行：石神が分科会を開会。

《コロナ感染2度目の夏を終えて》

石神

- ・コロナ二度目の夏としての取り組みはあるか

伊藤氏

- ・数値としては減少傾向。校外学習等の団体も軒並みキャンセルになった。
- ・小学校低学年が主な客層だったが客層が変わってきたためスポンサー様にお越しいただき講演の機会をつくるなど、柔軟な対応をすることが多くなった。

石神

- ・コロナ禍でなければこのような取り組みはなかったか。

伊藤氏

- ・お子様が体験する時間を有効活用できるように取り組みを始めたため、コロナ禍でなければやらなかったと思う。

石神

- ・従業員の動き方や接し方も柔軟になったか。

伊藤氏

- ・確かに今までよりも柔軟な対応が求められることが増えた。

《学内・学生の状況》

石神

- ・就職状況等は厳しい時期が続いている。

伊藤氏

- ・アルバイトとして働いている学生2名は良く働いてくれている。

《2022年度新入生用のカリキュラム》

石神

- ・『テーマパークオペレーション』2年間で60時間 ⇒ 105時間。1年次 カンドゥー研修含む。
- ・『テーマパークマネジメント』『エンターテイメント入門』『サービス接客検定』新規導入。
- ・既存のカリキュラムの時間数を増やしオペレーションする側でもマネジメントする側でも就職時に選択肢を増やせるよう、時代に合わせたカリキュラム作りをしたが、そこに関してどう思うか。

伊藤氏

- ・個人的には良いと思う。学生が学びたいのはマネジメントではないと思うが学んだほうが良い。

竹ノ谷

- ・表面だけでなく裏側の仕事を現場で感じられるような研修などはどうか。

伊藤氏

- ・良い考えだと思う。裏側を知る事で深く知ってもらえることも多くあると思う。

竹ノ谷

- ・裏側の業務を見せる事が出来るのもコロナ禍だからこそということもあると思う。

伊藤氏

- ・学生に響くか不安もあるが、ぜひ前向きに検討したい。
- ・学校として研修などが無くなった話を聞き、一つの案としてカンドゥーのブースをテーマパーク科に貸出しして仕事を教えるという事ができれば、企画立案にもふれられると思うがどうか。

竹ノ谷

- ・是非できればと思うが学生のレベルによって出来が変わる為、学科ではなく学校として動き、観光が学べるという大きなくくりで考えるのが良いのではないかと思う。その中心としてテーマパーク科が運営するでももちろん良いと思う。

石神

- ・良い話だと思う。前向きに検討したい。

進行：石神が分科会を閉会した。

### 【分科会】エアライン科

進行：湊が分科会を開会。

《2022年度入学生カリキュラムについて》

湊

- ・カーゴコースのカリキュラムを新しくする。企業連携でグラハン授業をもう一科目増やしたい。

栞原

- ・機材に特化した授業を行いたい。授業でのフォークリフト講座+外部での講習で、フォークリフト資格取得を目指す。
- ・現在行っている貿易実務の授業をロジ検定に変更。ロジ検定は倉庫の運営や梱包に関する検定で、貨物取扱い業務に必要な内容となっている。

山田氏

- ・現時点で貨物業務領域の業務は行っていないので協力できることが限られることとなり申し訳ない。ハンドスキャナーでの手荷物取扱い業務でも行っているため調整次第では空港で見学してもらうことは可能。
- ・フォークリフト資格に関して、会社が定めた期間内に退職しないという条件のもと、入社時に会社負担で資格を取らせている。他社も比較的同じような方法でフォークリフト資格を取らせている。
- ・現在、TT 車に付けるドーリーを探しているところ。TT 車+ドーリーの実習が、空港外の弊社内の敷地で行えたら良い。
- ・無線機を使用して実際の貨物の流れを疑似体験するような内容であれば、場所を選ばず可能。現場と無線を繋げて生のオペレーションを見てもらうのはどうか。
- ・貨物分野に特化した社員がいるので相談に乗らせてもらう。

湊

- ・現在行っているサービス介助士と手話の授業をユニバーサルマナー講座+手話にしたい。ユニバーサルマナー講座は、身体的・精神的障害いやLGBT等にも触れる内容。

鈴木氏

- ・ユニバーサルマナー講座の内容は課題であると思うがつかみどころがなく、現場で早々に必要とはなっていない。

石井氏

- ・専門学校で色々な資格が取れたら就職に有利だと思う。入社後に資格を取る者もいるが、在学中に資格取得の機会があるのは良い。
- ・LGBT等、多様性を学生時代に植え付けるのは教育として良いと思う。

磯邊氏

- ・資格は強み。NAAも職員がサービス介助士資格を取得することを奨励している。
- ・業務にあたる際に、資格があればスピード感を持って進めることが出来る。
- ・前もって多様性を認識しておくことで、多国籍のお客様に対して驚くことなくリラックスして要望を聞くことが出来る。

山田氏

- ・LGBT等の多様性を一般的に根付かせることは大切。以前、貨物部門にLGBTにあたる社員がいたが、貨物部門はターミナル内とは違いお手洗い等での配慮がすくなく、不便だったという声が聞かれた。
- ・LGBは外見上分からないが、トランスジェンダーは外見からも分かるもので、社会がまだそれに追いついていないと思う。

湊

- ・オンライン留学、オンライン旅行について

石井氏

- ・現地ガイドが実際に歩き、食事はUber eatsで運ぶ。というオンラインツアーがある。
- ・コロナ終息後、オンラインツアーと同じ内容の旅行をしてもらうことが目的。
- ・個人的な意見だが、オンラインツアーがさほど広がっているとは思わない。

鈴木氏

- ・ネットですぐに情報検索出来るし、スルーも出来るのでオンラインツアーが浸透するとは思えない。
- ・日本人中高生が留学に出発する姿が見られるようになった。コロナ後を見据え、留学先の状況をオンラインで発信することで次の営業に繋げている。

《就職状況》

松本

- ・現在のエアライン科内定率 55%
- ・航空業界旅客職の求人がないため、ホテルや貨物業界に就職する学生あり。
- ・今後、エアライン以外の企業開拓も行っていきたい。